

柳橋の歴史

柳橋 町の歴史

柳橋という町の名は、江戸中期の頃から花街として人によく知られ、橋のほとりには船宿が数多く並び大変な賑わいだったようです。幕末・明治以降も花柳界として高く、夏には両国橋を中心に大川で花火が打ち上げられていました。

春の夜や 女見返る 柳橋

——正岡子規によるこの句を始め、柳橋は文人たちに度々とりあげられ、山本周五郎、池波正太郎、藤沢周平などの時代小説を始め、映画やドラマの舞台にもなり、江戸の雰囲気を感じられる数少ない町として、今も人々に親しまれています。

柳橋 名前の由来

- 一、矢の倉橋が矢之城橋になり、さらに柳橋になる。
- 二、柳原堤の末にあったことに由来する。
- 三、橋のたもとに柳の木があったことに由来する。



柳橋の欄干をかざる、かんざしのレリーフ



橋のたもとにある、柳橋についての石碑



昭和36年当時の柳橋周辺



昭和41年頃の柳橋



柳橋より神田川沿い

写真所蔵/小松屋



柳橋芸者 蔦清小松朝じさん

102歳まで現役江戸っ子芸者でした